

■塙忠宝 国学者。父保己一の死で遺業継承、苦難のなか、流言で尊攘派の怒りを買い、伊藤博文らに暗殺された。

はなわただとみ

船狼藉・ 1807 = 江戸表六番町で、塙保己一の四男に生まれる。

長男寅之助、次男道之助が夭折し、三男熊太郎は五味忠次郎の養子となったため、忠宝が家督を相続。

伊能測量終・ 1816 = 9歳：

水野忠成老中 1818 = 11歳：

蝦夷地直轄終 1821 = 14歳： 父保己一が死去したが、これをふせ、

藤栗毛終・ 1822 = 15歳： *「史料」村上天皇事記50冊、「武家名目抄」草稿18冊・堂上記8部、「群書類従」169冊、「続群書類従」目録2冊を幕府に献上した後、跡目相続を出願。認可され和学講談所を継承。幕府・水戸家それぞれ5人扶持となる。

異国船打払令 1825 = 18歳：

・ 1826 = 19歳： 「史料」冷泉天皇事記7冊、円融天皇事記35冊を調進した後、幕府の指示通り「武家名目抄」の編纂に重点をおき、中山信名を主任とした。また「史料」の編纂も続行し、関口行之を主任とした。また「続群書類従」の編纂にも尽力するが、事業は資金難などで困難となり、

日本外史・ 1827 = 20歳： 開版を断念し、とりあえず清書本を紅葉山文庫と昌平坂学問所とに納める方針に変更。

シーボルト事件・ 1828 = 21歳：

シーボルト追放・ 1829 = 22歳： *「群書類従」260巻を伊勢神宮文庫に奉納(25年前に保己一が270巻を奉納した残分)。

高島砲術・ 1834 = 27歳：

・ 1836 = 29歳： しかし「武家名目抄」は、中心人物であった信名が死去し、「武家名目抄」は30冊、

大塩平八郎乱 1837 = 30歳：

勸進帳初演・ 1840 = 33歳： さらに松岡辰方が死去したため、55冊を調進するにとどまった。

以後、20年間「武家名目抄」をおき、「史料」の編纂を中心とする。

順天堂始・ 1843 = 36歳：

阿部正弘首座 1845 = 38歳：

「続群書類従」は途中、信名の死去もあって、さらに困難を極め、

国定忠治磔・ 1850 = 43歳： 「続群書類従」編纂の史料調査のため、名古屋の真福寺、伊勢の宮崎・林崎文庫を訪ねた。「内宮御神宝記」「外宮御神宝記」の奥書に足代弘訓が校合したことがあり、伊勢の学者が「続群書類従」編纂に協力している。このときの調査を記した「上京日記」がある。

尊徳報徳論・ 1851 = 44歳： ようやく開版し幕府に献上するも7冊にすぎなかった。

万次郎帰国・ 1852 = 45歳：

ペリー来航・ 1853 = 46歳：

また忠宝は歌を小林歌城に学び、詠んだ年代順に記した歌集「温故詠草」がある。

桜田門外変・ 1860 = 53歳： *井伊直弼暗殺後、老中首座になった安藤信正に命じられて寛永以前の外国人待遇式例等を調査したことが、鈴木重胤の「日本書紀伝」に、忠宝が前田夏蔭とともに廃帝の典故事例を調べたと記されたために流説が起こって、尊王志士の怒りを買い、

遣欧使節・ 1861 = 54歳：

生麦事件・ 1862 = 55歳： 和学講談所の拡充改革案を林大学頭林学斎に提出、幕府学問所奉行の支配を受けることになる。*中坊広伴邸での歌会の帰途、九段坂付近で、伊藤俊輔(博文)と山尾庸三に襲われ、加藤一周とともに、没した。「続群書類従」「塙前総検校年譜」「古簡雑纂」「集古文書」「南朝編年稿」「螢蠅抄」「近世武家名目一覧」など。